専大校友を訪ねて

大学時代の仲間とプロモーション会社を創業

古井（ふるい） 貴（たかし）さん （平2経済）

心動かす体験で社会にムーブメントを

総合プロモーション企業「フロンティアインターナショナル」（東京都渋谷区）の創業メンバーで、現在は常務取締役として組織を束ねる。

大学在学中に参加していたインカレサークルが母体。専大松戸高出身で顔が広かった古井さんはその人脈と持ち前の行動力を生かし、学内外でさまざまなイベントを企画。手応えをつかみ、卒業後に仲間と会社をつくった。当時はベンチャーブームで多くの学生が起業したが、「当社のように創業時からメンバーも業態も変わらず、上場までした会社は珍しいと思う。大学時代の青春がそのまま今につながり、仕事が楽しい」と満面の笑み。

ジーンズのPRイベントやボディーボードの世界大会、携帯ゲームのプロモーションなど、これまでに数多くのイベントやキャンペーンを手掛けてきた。デジタル化が進み、ライフスタイルは大きく変化したが、30年以上にわたり業界の第一線で活躍する古井さんは「価値ある体験こそが人の心を動かし、社会にムーブメントを起こす」と力を込める。

社会貢献性の高いプロジェクトにも精力的に関わってきた。「教師の日」の国内普及に向けた取り組みもその一つ。教師に感謝を伝える日として多くの国で定着している教師の日を日本にも広めようと、寄せ書きや花束を贈る感謝セレモニー、心に残る教師の言葉を募集して展示する「先生のコトバ展」などを各地で開催。地道な取り組みが実を結び、共感の輪は広がりを見せている。

この取り組みに、現在専大在学中で当時中学生だった長男も共感。父譲りの行動力を発揮し、担任教師へのサプライズを企画。「クラスメートに呼び掛けて秘密裏に準備を進め、感謝の言葉と花束をプレゼント。担任教師は涙を浮かべ喜んだそうです」と語るまなざしは温かい。

OB起業家として専大ベンチャービジネスコンテストで講演するなど、在学生とも身近に接してきた。後輩たちに対して「アウトプットする場を積極的につくってほしい」と古井さん。

「人前に出て話す、スポーツの試合に出るなど、どんな形でもいい。挑戦し、小さな成功体験を積み重ねることで自信が生まれる」とアドバイスする。

第18回専大ベンチャービジネスコンテストで、講演する古井さん＝2019年

2022年度校友会定時総会

新設の親善大使に芝池氏と横瀬氏

7月9日、2022年度校友会定時総会が、京王プラザホテル（東京都新宿区）で開催された。昨年同様、新型コロナウイルス感染症の防止対策を行いながら、対面形式で実施。北海道や沖縄県など遠方から参加した校友を含め、約150人が集い、旧交を温めた。

昨年度の取り組みを報告する桃野会長

桃野直樹校友会長は、校友会ホームページを活用した支部情報発信体制の拡充、広報活動や校友の交流促進を目的とした親善大使の創設など、昨年度の取り組みを報告。「校友の輪の拡大を目的に、若い校友にも参加してもらえるような活動を行っていく。母校を力強く支える会にしていきたい」と展望を語った。

松木健一理事長、日髙義博総長らのあいさつに続き、初の親善大使となった2人が紹介された。就任したのは、野球部OBで投手として東都大学野球リーグ戦の最多勝利数（41勝）を保持する芝池博明さん（昭44商）と、経済界で活躍する、りそな銀行元執行役員の横瀬三亀夫さん（昭50商）。2人は「大学への恩返しとして、校友の輪を広げる手助けがしたい」とあいさつした。

第2部では佐々木重人学長が「SiU2025戦略――学長として取り組みたいこと――」をテーマに講演。「校友の皆さんにもご協力いただき、専修大学ブランドの強化を図りたい」と話した。

就職だより

〈4年次生へ〉夏期休暇も間もなく終わりますが、就職活動の状況はいかがでしょうか。採用を追加募集する企業も相次いでおり、本学学生の採用意欲の高い企業の求人情報も継続して届いています。活動を継続している人は、就職支援システム（S-net）の「来校企業情報」を定期的にチェックして有効活用してください。

また、就職活動をうまく進められていない場合は、その理由を分析しなければなりません。ひとりで悩まず、キャリア形成支援課の相談（対面・web）を利用してください。

〈3年次生へ〉10月に第2回就職ガイダンスを開催します。就職活動の準備をどのように進めていくべきかを知るための重要な機会となりますので、必ず出席してください。また、後期も各種の支援プログラムを実施します。これらの詳細については「in Campus」で発信しますので、必ず確認してください。

夏のインターンシップへ参加した人は、今後の就職活動に役立つヒントとなりますので、経験を通じて得た学びや反省点をまとめておくことをお勧めします。

ホームカミングデー2022
▽10月30日（日）10～15時
▽神田キャンパス10号館
オンライン併用のハイブリッド型で実施予定。
10月上旬、大学ホームページに特設サイトを開設。

校友会情報

第26回参院選当選者

（7月10日投開票※50音順）

▽石井章氏（平23法）
比例、維新、2選

▽加藤明良氏（平3商）
茨城県、自民、新

▽松村祥史氏（昭62経営）
熊本県、自民、4選

選挙結果

▽青森県今別町長選挙（7月24日投開票）
阿部義治氏（昭48経営）元

就任

▽第2次岸田改造内閣（8月10日発足）防衛大臣
浜田靖一氏（昭55経営）

〈墨田支部総会〉
▽9月30日（金）18時半～▽東武ホテルレバント東京（墨田区）

〈新潟県支部総会〉
▽10月1日（土）17時～▽ANAクラウンプラザホテル新潟（新潟市）

〈江戸川支部総会〉
▽10月8日（土）15時～▽エコー本店（江戸川区）

〈東北支部連合会総会、仙台支部総会〉
▽10月15日（土）連合会総会13時20分～、支部総会15時～▽江陽グランドホテル（仙台市）

〈阿賀北支部総会〉
▽10月15日（土）18時～▽金子屋別館（新発田市）

〈山形支部総会〉
▽10月22日（土）15時～▽山形グランドホテル（山形市）

〈兵庫支部総会〉
▽10月23日（日）12時～▽湊川神社楠公会館（神戸市）

※支部総会に関するお問い合わせ【校友会事務局】☎03・3265・7579

北京五輪銅メダリスト

森重航さんに有志が激励金

7月29日、スピードスケート部の森重航さん（経営4）に校友会有志から激励金が渡された。

激励金には桃野直樹校友会長をはじめ、東京・神奈川の10支部が協力。桃野会長が応援の言葉とともに手渡した。

森重さんは北京冬季五輪の男子500㍍で銅メダルを獲得。現在は新シーズンに向けて練習に励んでいる。「今年はチャレンジの年。校友の皆さんからの期待に応えられるように頑張りたい」と意気込みを語った。

森重さん（右）と桃野会長

鶴田名誉教授の遺徳を偲ぶ

2月18日に死去した鶴田俊正名誉教授を偲ぶ会が9月2日、神田キャンパスで有志により開かれた。大学・官庁・エネルギー業界関係者や友人、教え子ら約180人が、遺徳を偲び、思い出を語り合った。

鶴田名誉教授は1977年から2004年まで経済学部に在職。専門は産業構造論で、98年には『規制緩和』（ちくま新書）で第19回石橋湛山賞を受賞。学外では、経済産業省、公正取引委員会などで各種委員を務め、電力・ガス部分自由化の制度設計に深く携わった。

会場には献花台が設けられ、アルバムや研究業績などを展示。故人のジャズ演奏や校歌が流れ、スクリーンには在りし日の写真が映された。

業績を振り返る出席者たち

ハラスメントのないキャンパスへ

「シナモンいじめ」から、ハラスメントを考える

シナモロール（シナモン）は、「サンリオキャラクター大賞」で2020年から22年にかけて連続で1位になるほどの、人気キャラクターです。そんなシナモンですが、15年には、SNSのツイッター上で「いじめ被害」にあっていることがニュースとなりました[1]。シナモンのツイッターの公式アカウントに対して、匿名での誹謗中傷や暴言など、嫌がらせ投稿が相次いだのです。

こうした、いじめや嫌がらせにあたる行為は、「ハラスメント」と捉えられるかもしれません。

ハラスメントに対しては、近年、世界的に問題意識が高まり、日本社会でも、学校、職場、スポーツ界、芸術界などで生じるハラスメントが報道される機会が増えています。また、ハラスメントの要因となる行為の類型によって分けた用語、例えば、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、モラル・ハラスメントなど（また、略称に変換した「セクハラ」「パワハラ」「モラハラ」など）は、一般的な言葉として普及もしてきました。なお、大学での授業や課外活動、研究活動などに関連したハラスメントは、「キャンパス・ハラスメント」と総称されています。

ただ、言葉の広がりの陰で、見落としてはならないことがあります。それは、「ハラスメント」という言葉を（従来のいじめ、嫌がらせ、ではなく）あえて用いるのには、理由があることです。その一つは、当事者間のトラブルやコミュニケーション不足といった個人的な問題ではなく、社会や組織の構造的な問題として捉えるためです[2]。

したがって、冒頭のシナモンへの「ハラスメント」についても、「シナモンかわいそう」や「キャラクターをいじめるのはダメ」と言って片付ける話題ではなく、なぜ、どのような状況で生じてしまうのか、日本社会に存在する構造的な問題として考えてみる必要もあるでしょう。

（キャンパス・ハラスメント対策室員　後藤吉彦）

1）J-CAST、2015「人気キャラ『シナモン』をネット急襲 『ゴミ』『死ね』…もはや『いじめ』だ」（2022年8月8日取得、https://www.j-cast.com/2015/05/14235209.html）
2）大和田敢太、2018『職場のハラスメント なぜ起こり、どう対処すべきか』中央公論新社

キャンパス・ハラスメント対策室　TEL：044-900-7858　E-mail：camhara@acc.senshu-u.ac.jp